

施策(小)評価シート

1 基本情報

年度	21	施策名(小)	交通安全対策	担当部課名
政策名	すこやかに暮らせる、心かようまちづくり			市民環境部まちづくり推進室
施策名(大)	市民の安全確保			
施策名(中)	防犯・交通安全対策			
目的	交通安全諸機関との連携を保ちつつ、該当指導などの啓発活動を行うなど、市民の交通安全意識とモラルの高揚をはかる。			

2 評価指標

指標名	単位	実績値			目標
		19年度	20年度	21年度	22年度
キャンペーン実施数	回	20	13	18	20
交通事故発生件数(人身・年間)	件	252	251	244	240
交通安全教室実施回数	回	40	40	36	40

3 施策に対する投入資源

投入資源	単位	19年度	20年度	21年度	22年度
		事業費	千円	5,157	4,865
人件費	千円	13,757	11,844	11,830	12,082
合計	千円	18,914	16,709	16,615	17,145

4 施策評価

	評価判定	判定理由及び課題等
①目標の達成状況	◎ ◎ 概ね順調に推移している ○ 一定程度進展している △ 少しは進展している ▲ 進展していない	年間を通じて基本教育に力を注ぎ、事故件数や、死亡事故者の減少等実績もあがっている。
②社会情勢の反映・有効性	○ ◎ 有効に対応できている ○ 情報把握に努めている △ あまり対応できていない ▲ 有効に対応できていない	児童生徒の交通教育だけではなく、高齢化社会に対応すべく、高齢者教育にも重点をおいている。
③構成事務事業の妥当性	◎ ◎ 効率的な構成である ○ 改善が必要な事業がある(1事業) △ 改善が必要な事業がある(複数) ▲ 構成自体に問題がある	交通安全対策については、行政だけではなく、交通安全協会、警察署との連携協力のもと行っている。
④業務方法の効率性	◎ ◎ 効率的に進めている ○ 改善等の余地が一部ある △ 改善等の余地が大きい ▲ 抜本的な改善等が必要である	放置自転車の状況や、交通事故件数など数値目標で達成できる。
⑤施策の総合評価	A A 継続 B 改善 C 再構築 D 見直し・縮減	交通安全教室の開催や、PRキャンペーンは基本である。

5 施策の推進に向けた今後の対応

既存事務事業及び新規事業の方向性	高齢者の増加や、自転車事故等、新たな視点での教育も取り入れる。
------------------	---------------------------------

6 構成事務事業

NO	事務事業名 事業開始年度	指標名 (単位)			投入資源(千円)		妥当性
					事業費	人件費	
		20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	20年度	20年度	
					21年度	21年度	
			22年度	22年度			
1	交通安全意識啓発事業 —	キャンペーン実施数 回			505	6,749	5
					504	6,548	
		13	18	20	490	6,675	
2	交通安全推進事業 —	交通事故発生件数(人身・年間) 件数			4,086	1,973	5
					4,009	1,946	
		251	244	240	4,283	1,973	
3	交通安全協会補助金事業 —	交通安全教室実施回数 回			270	787	4
					270	1,056	
		40	36	40	270	1,097	
4	放置自転車対策事業 平成7年	放置自転車撤去台数 回			4	2,335	5
					2	2,280	
		265	176	200	20	2,337	
5					0	0	
					0	0	
					0	0	
6					0	0	
					0	0	
					0	0	
7					0	0	
					0	0	
					0	0	
8					0	0	
					0	0	
					0	0	
9					0	0	
					0	0	
					0	0	
10					0	0	
					0	0	
					0	0	
11					0	0	
					0	0	
					0	0	
12					0	0	
					0	0	
					0	0	

第三者評価委員会意見

警察及び交通安全協会との連携強化を図るなかで、コスト意識をもちながら進めていただきたい。
高齢者の事故に対する対策の充実強化に取り組むことを期待する。